



城山公園
周囲4kmの
自然公園
三嶋神社

足利時代の武将
赤川武蔵守知時が
城を構えたので
城山島と呼ばれる

細い路地と坂
情緒と人情
あふれる漁師町

間人たいざりてアマルク

間人たいざ地名の由来

「間人」と書いて「たいざ」こう名前がついたのはこんないわれがあるのです。
六世紀の末、聖徳太子の生母・穴穗部間人皇后(あなほへのはしうど)は乱を逃れるためこの間人に逃げこられました。ヤゲで争いも治まり、大和に帰る際に里の人々のもてなしに感謝して、皇后は自らの名「はしうど」をこの地に与えました。ところが人々は皇后の名を口にするのは恐れ多いと、この地を遷座されたのになんか「たいざ」と呼ぶようになったと言っています。

松本重太郎生誕の地

10歳で丁稚奉公に出て以来、大阪で銀行・編織・鉄道・ビール会社など、次々と事業を起こし、拡大し、遂には「西の渋沢栄一」とまで云われた松本重太郎は間人の生まれです。関西一の財界人であり、戦前から明治期を駆け抜けた近代日本を代表する実業家です。
その波瀾の生涯は、峠山三郎著の「気張る男」という本にもなりました。



幻の間人かに

荒波の日本海の魚貝類は、能ぐのつて格別の味。そんな地元魚が数多く水揚げされる間人漁港。中でも「間人かに」とブランド化されたずわいげには幻とまで言われています。経ヶ岬沖を漁場とするため日帰り操業で鮮度がいいのが旨さの秘訣です。そんな間人かにが水揚げされる11月から3月は漁港も活気に溢れ賑わいます。セリの風景や女たちの働く姿など、間人の人たちの生活そのものを感じ取ることができる場所です。●7月25日/港まつり

京都百景 立岩

麻呂子親王が大江山の鬼を退治して閉じ込めたという伝説のある立岩。周囲が約1キロもあるといわれ、日本でも数少ない自然岩のひとつであり、リアス式海岸で奇岩の多い丹後町でもシンボリックな存在となっています。



神社の参道
同じ方向に
かまいた松
が立ち並ぶ

古代の石器・土器
如玉や鏡類を
常設展示している
付近には古墳も
99!



新聞人トンネル

間人中学校

弥栄町へ